

(様式第 10)

17 福井大第 1369 号  
平成 29 年 10 月

厚生労働大臣 殿

開設者名 福井大学長  
真弓 光 文

福井大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒910-8507 福井県福井市文京 3 丁目 9 番 1 号
氏 名	国立大学法人 福井大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

福井大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 2 3 号 3 番地	電話(0776)61-3111
--------------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	①	無
内科と組み合わせた診療科名等		
①呼吸器科	②消化器科	③循環器科
④腎臓内科	⑤神経内科	⑥血液内科
⑦内分泌内科	⑧代謝内科	⑨感染症内科
⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑪リウマチ科	
診療実績		
腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、感染症内科、リウマチ科の内容は内科で診療している。		
アレルギー疾患内科またはアレルギー科の内容は呼吸器科で診療している。		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載す

ること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科                      2消化器外科                      3乳腺外科                      4心臓外科 5血管外科                      ⑥心臓血管外科                      7内分泌外科                      8小児外科	
診療実績 消化器外科、乳腺外科、内分泌外科、小児外科の内容は外科で診療している。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科    ②小児科    ③整形外科    ④脳神経外科    ⑤皮膚科    ⑥泌尿器科    ⑦産婦人科 8産科    9婦人科    ⑩眼科    ⑪耳鼻咽喉科    ⑫放射線科    13放射線診断科 14放射線治療科    ⑮麻酔科    ⑯救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科    2矯正歯科    3口腔外科    ④歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1リハビリテーション科	2形成外科	3病理診断科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41床	0床	0床	0床	559床	600床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	297人	98人	371.9人	看護補助者	63人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	6人	5人	9.6人	理学療法士	15人	臨床検査技師	40人
薬剤師	44人	0人	44人	作業療法士	6人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	6人	その他	0人
助産師	16人	0人	16人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	698人	32人	717.8人	臨床工学士	10人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	1人	その他の技術員	8人
歯科衛生士	1人	1人	1.7人	歯科技工士	1人	事務職員	180人
管理栄養士	9人	1人	9.7人	診療放射線技師	30人	その他の職員	48人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	26人	眼科専門医	5人
外科専門医	20人	耳鼻咽喉科専門医	14人
精神科専門医	6人	放射線科専門医	13人
小児科専門医	17人	脳神経外科専門医	10人
皮膚科専門医	3人	整形外科専門医	10人
泌尿器科専門医	12人	麻酔科専門医	10人
産婦人科専門医	15人	救急科専門医	14人
		合 計	175人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (腰地 孝昭) 任命年月日 平成28年4月1日

平成24年4月～平成28年3月 副病院長 (医療安全担当)、医療安全管理委員会委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	488.8人	7.6人	496.5人
1日当たり平均外来患者数	853.9人	24.4人	878.4人
1日当たり平均調剤数	入院：768.4剤 外来：48.2剤		
必要医師数			104人
必要歯科医師数			3人
必要薬剤師数			17人
必要(准)看護師数			279人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備		概要	
集中治療室	183.52 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋 コンクリート	病床数	10床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 335.91 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台			病床数	31床	
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 50.82 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	225m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体検査自動化総合システム			
細菌検査室	68m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動細菌検査システム			
病理検査室	125m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動薄切装置, 病理組織染色機			
病理解剖室	55m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台			
研究室	4,686m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) リアルタイム定量PCR装置			
講義室	357m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	426人
図書室	1,861m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	21室	蔵書数	13万2千冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	79.6%	逆紹介率	62.1%
算出根拠	A: 紹介患者の数			8,802人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			8,157人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			1,649人
	D: 初診の患者の数			13,133人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
谷内江昭宏	国立大学法人 金沢大学附属 病院医療安全管理部	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
吉川奈奈	杉原・きっかわ 法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
草桶秀夫	福井工業大学		医療を受ける者の立場から意見を延べることができる者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法	
福井大学医学部附属病院ホームページに掲載	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	0人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	11人
前眼部三次元画像解析	23人
(他の保険医療機関に対して検体の採取以外の業務を委託して実施する保険医療機関)急性リンパ性白血球細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
FOLFOX6単独療法における血中5-FU濃度モニタリング情報を用いた5-FU投与量の決定	1人
LDLアフェレシス療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示  
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法 腹膜播種又は進行性胃がん(腹水細胞診又は腹腔洗浄細胞診により遊離がん細胞を認めるものに限る。)	2人
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	1人
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	0人
オクトレオチド皮下注射療法 先天性高インスリン血症(生後二週以上十二月未満の患者に係るものであって、ジアゾキサイドの経口投与では、その治療に係る効果が認められないものに限る。)	0人
S-1内服投与、オキサリプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	1人
術前のTS-1内服投与、パクリタキセル静脈内及び腹腔内投与並びに術後のパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 根治切除が可能な漿膜浸潤を伴う胃がん(洗浄細胞診により、がん細胞の存在が認められないものに限る。)	3人
カペシタジン内服投与、シスプラチン静脈内投与及びドセタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	0人
mFOLFOX6及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 胃がん(腺がん及び腹膜播種であると確認されたものであって、抗悪性腫瘍剤の経口投与では治療が困難なものに限る。)	5人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	術中腹腔内温熱化学療法(HIPEC)	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 大腸癌腹膜転移及び腹膜偽粘液腫を対象に治療を行っている。腹膜転移以外の切除不能因子の無い症例に対して、原発巣切除、可及的播種巣切除、リンパ節郭清等を行った後に、シスプラチン、エトポシド、マイトマイシンCを混和した生理食塩水を43℃に加温し、腹腔内を灌流することで腹膜転移に対して治療する。			
医療技術名	遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対するBRCA1、BRCA2遺伝子検査	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 乳癌卵巣癌の家族癌が濃厚な乳癌卵巣癌患者に対して遺伝カウンセリングと、施術後希望者にBRCA1またはBRCA2遺伝子検査を行う。抗癌剤選択、予防的卵巣切除、血縁者の乳癌卵巣癌検診を行う。			
医療技術名	FES-PET検査による乳癌患者における内分泌治療効果予測に関する研究	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 ホルモン受容体陽性の転移再発乳癌に対してエストロゲンを用いたPET検査を施行し、内分泌治療効果を予測する。			
医療技術名	Her2陽性原発乳癌のTopoisomerasellA発現による術前・術後補助化学療法の個別化治療	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 Her2陽性原発乳癌組織を免疫染色にてTopoisomerasellA発現を調べ、陽性の場合にはアントラサイクリン系抗がん剤を投与し、陰性の場合には、プラチナ系またはタキサン系抗がん剤をTrastuzumabに併用して投与すると当科24例では再発例を認めない。			
医療技術名	PETを用いた圧迫性頸髄症に対する脊髄グルコース代謝量の定量的評価と臨床応用	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 PET imagingの臨床応用として、頸髄部の変化を確認し、圧迫病変の評価を行う。			
医療技術名	骨盤骨折の治療におけるナビゲーション支援手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 重度外傷である骨盤骨折の観血的治療において、ナビゲーションシステムによる支援を行うことで、より安全かつ正確な手術を行うことができる。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病	24
2	筋萎縮性側索硬化症	9	57	特発性拡張型心筋症	13
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症	3
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	11	60	再生不良性貧血	19
6	パーキンソン病	85	61	自己免疫性溶血性貧血	0
7	大脳皮質基底核変性症	7	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	33
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群	3
11	重症筋無力症	29	66	IgA腎症	3
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	8
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	30	68	黄色靱帯骨化症	30
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	4	69	後縦靱帯骨化症	97
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症	15
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	42
17	多系統萎縮症	11	72	下垂体性ADH分泌異常症	2
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	23	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	7	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	3
21	ミトコンドリア病	11	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	29	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	6
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	26
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	6	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	51
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	32
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	4
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	2
34	神経線維腫症	9	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	12	90	網膜色素変性症	18
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	4	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	10
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	10	95	自己免疫性肝炎	1
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	33
42	結節性多発動脈炎	4	97	潰瘍性大腸炎	59
43	顕微鏡的多発血管炎	7	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	0	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	3	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	3	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	8	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	59	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	30	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	58	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	17	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	9	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	4	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2
113	筋ジストロフィー	5	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	2	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ベリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	2	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	1	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壞疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	4	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	5
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性降炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	1
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	3

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・退院支援加算1 及び 地域連携診療計画加算
・歯科外来診療環境体制加算	・認知症ケア加算1
・特定機能病院入院基本料 一般病棟(7対1)	・精神疾患診療体制加算
・特定機能病院入院基本料 精神病棟(13対1)	・地域歯科診療支援病院入院加算
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料3
・診療録管理体制加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料
・医師事務作業補助体制加算1(75対1)	・新生児治療回復室入院医療管理料
・急性期看護補助体制加算(25対1)(看護補助者5割未満)	・小児入院医療管理料3 及び プレイルーム加算
・看護職員夜間配置加算(12対1配置加算2)	・
・看護補助加算2	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1 及び 感染防止対策地域連携加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・データ提出加算2 イ(200床以上)	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・時間内歩行試験 及び シャトルウォーキングテスト
・糖尿病合併症管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん患者指導管理料1	・神経学的検査
・がん患者指導管理料2	・補聴器適合検査
・がん患者指導管理料3	・ロービジョン検査判断料
・外来緩和ケア管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・糖尿病透析予防指導管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・院内トリアージ実施料	・内服・点滴誘発試験
・ニコチン依存症管理料	・画像診断管理加算2
・がん治療連携計画策定料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・排尿自立指導料	・ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・CT撮影 及び MRI撮影
・薬剤管理指導料	・冠動脈CT撮影加算
・検査・画像情報提供加算 及び 電子的診療情報評価料	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料1	・乳房MRI撮影加算
・医療機器安全管理料2	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・外来化学療法加算1
・歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)	・無菌製剤処理料
・持続血糖測定器加算 及び 皮下連続式グルコース測定	・心大血管疾患リハビリテーション料(I) 及び 初期加算
・遺伝学的検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I) 及び 初期加算
・HPV核酸検出 及び HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・運動器リハビリテーション料(I) 及び 初期加算
・検体検査管理加算(IV)	・呼吸器リハビリテーション料(I) 及び 初期加算
・遺伝カウンセリング加算	・がん患者リハビリテーション料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・歯科口腔リハビリテーション料2
・胎児心エコー法	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医療保護入院等診療料	・ペースメーカー移植術 及び ペースメーカー交換術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1	・両心室ペースメーカー移植術 及び 両心室ペースメーカー交換術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術 及び 経静脈電極抜去術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術 及び 両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・透析液水質確保加算2	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・手術用顕微鏡加算	・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・歯科技工加算1及び2	・腹腔鏡下肝切除術 部分切除及び 外側区域切除
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・体外衝撃波碎石破砕術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・同種死体腎移植術
・脊髄刺激装置植込術 及び 脊髄刺激装置交換術	・生体腎移植術
・羊膜移植術	・膀胱水圧拡張術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・網膜再建術	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・人工内耳植込術 及び 人工中耳用材料	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1)及びセンチネルリンパ節生検1(併用法)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算2)及びセンチネルリンパ節生検2(単独法)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・輸血管管理料 I
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) 1 高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの	・貯血式自己血輸血管管理体制加算





(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ 特になし。	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

- ① 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
② 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理診断部門: 月11回 臨床検査部門: 週3回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 24 例 / 剖検率 8.86 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
SIRSを本体とする重症感染症に対する抗菌薬のサイトカイン産生抑制の意義	酒巻 一平	血液・腫瘍内科	1,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
細胞内分子薬理に基づく新規尿酸生成抑制薬とプリンアナログの至適併用の確立	森田 美穂子	血液・腫瘍内科	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
胃発癌を制御する食品のエピジェネティクス機構の解析	須藤 弘之	内科学(2)	700,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Rho-ROCK阻害薬によるタウ蛋白オリゴマー形成抑制機構の解明	濱野 忠則	内科学(2)	1,900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
マイクロキャピティアレイ液体生検技術を用いた肝がん再発超早期診断法の開発	中本 安成	内科学(2)	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ホモシステインが促進するアルツハイマー病・タウ蛋白オリゴマー形成機序の解明	白藤 法道	神経内科	1,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アルツハイマー病患者におけるPET酸化ストレスイメージングによる病態解明	井川 正道	神経内科	1,800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
プロトン感知性受容体OGR1の慢性気道炎症、気道分泌への関与に関する研究	石塚 全	内科学(3)	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
“脂肪心筋”が不整脈を起こすメカニズムの研究	鈴木 仁弥	内分泌・代謝内科	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
末梢血単核球膜型マトリックス分解酵素発現を用いた冠動脈イベントリスクの層別化	宇隨 弘泰	循環器内科学	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ナノ粒子を利用した食物アレルギーの経皮免疫療法	大嶋 勇成	小児科学	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
線維細胞を指標とした気道リモデリング進展リスク評価法の確立	林 仁幸子	小児科学	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
胃粘膜保護剤グラニルグラニルアセトンを用いた気管支肺異形成症の新規予防戦略	徳力 周子	小児科学	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
気道上皮における小胞体ストレス応答が気管支喘息の病態に与える影響	村井 宏生	小児科学	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
未熟児における新たな腸管発育評価法の確立と腸保護戦略	奥野 貴士	小児科	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
皮膚免疫応答の制御による、食物アレルギーの感作抑制と免疫療法への応用	川崎 亜希子	小児科	1,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
医学的評価に基づく自閉症児のきょうだい支援システムの構築	川谷 正男	小児科	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アクチン架橋蛋白を介した免疫調節機構の解明	安富 素子	小児科	1,400,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
精神疾患と創造性: 神経ネットワーク理論に基づく神経基盤の解明	上野 幹二	精神医学	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ADHD児と自閉症児の前頭葉機能特性および薬物と療育効果による変化	松村 由紀子	精神医学	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
神経ネットワークに着目した電気けいれん療法的作用機序の解明-脳波の非線形解析-	岡崎 玲子	神経科精神科	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
社会的孤立の負荷期間延長は、うつ状態の増悪ではなく、躁状態を引き起こすか?	小俣 直人	神経科精神科	1,400,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
胎仔期循環血液内の間葉系幹細胞を利用した遺伝性・難治性皮膚疾患の新規治療法の確立	知野 剛直	皮膚科学	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
抗CX3CL1中和抗体を用いた全身性強皮症の治療法の開発	長谷川 稔	皮膚科学	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計24

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
皮膚創傷形成から治癒過程におけるデルモカインβの役割	飯野 志郎	皮膚科	700,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ASL脳循環代謝機能画像の開発と臨床応用展開の研究	木村 浩彦	放射線医学	1,100,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
PAR1の消化管癌浸潤・転移における関与の解析とその制御の確立	廣野 靖夫	消化器外科	1,200,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
X線透過性素材(PEEK材)を用いた手術器具の開発	腰地 孝昭	病院長	1,300,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
慢性圧迫脊髄に起因する疼痛や感覚障害に関する組織化学的検討	竹浦 直人	整形外科	1,200,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
椎間板変性過程におけるマクロファージの動態と極性化の解明	小久保 安朗	整形外科	1,500,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
肉腫のエクソソームは本当に前転移ニッチを“教育”するのか?	松峯 昭彦	整形外科	91,508	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊髄障害性疼痛の分子・細胞病態解明とニューロイメージング評価法の開発	中嶋 秀明	整形外科	1,400,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
遺伝子導入脂肪由来幹細胞を用いた脊髄損傷治療効果の検証	高橋 藍	整形外科	2,200,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
CD271陽性骨髄幹細胞を用いた変形性関節症に対する軟骨再生治療の試み	宮崎 剛	整形外科	700,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
クラゲコラーゲンを利用した人工硬膜の作成とその性能評価	小寺 俊昭	脳脊髄神経外科	800,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ラット慢性進行性局所脳虚血モデルの新規作成と酢酸PETを用いたグリア代謝	菊田 健一郎	脳脊髄神経外科学	1,200,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Transit Timeを補正したASL画像における定量的脳血流評価に関する検討	磯崎 誠	脳脊髄神経外科学	1,000,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
フルマゼニルPET/MRIを用いたくも膜下出血後の高次脳機能障害メカニズムの解明	東野 芳史	脳脊髄神経外科学	700,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳虚血下のグリア細胞機能の可視化とその機能の解明	常俊 頭三	脳脊髄神経外科	1,200,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
18FfluoroacetatePETを用いたアストロサイト機能での脳疾患の解明	根石 拓行	脳脊髄神経外科	300,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
左心室拡張末期容量(Ved)のモニタによる心前負荷調節機序の解明	重見 研司	麻酔・蘇生学	500,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
揮発性麻酔薬の液滴張り合わせ法の確立と膜相互作用	松木 悠佳	麻酔・蘇生学	600,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
麻酔薬応答能の個人差に関する新規薬力学的アプローチ:生体膜構成脂質の機能	溝上 真樹	麻酔・蘇生科	1,200,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
超低出生体重児の消化管成熟に向けた治療戦略:肺サーファクタントを用いた動物実験	西島 浩二	産科婦人科	1,000,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
細胞内ブランチナ濃度を制御するhCTR1とATP7Bに着目した難治性卵巣癌治療戦略	黒川 哲司	産科婦人科学	1,400,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
主席卵胞選択メカニズムの解明をめざして:質の高い卵子の選択のために	服部 克成	産科婦人科学	1,100,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
in vivo 蛍光イメージングを利用したHPV感染細胞可視化の試み	品川 明子	産科婦人科学	500,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
子宮頸がんの放射線性腸炎と内臓脂肪の関連性解明	杉田 元気	産科婦人科学	900,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計24

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
分子イメージング法を応用した子宮肉腫肺転移機構の解明と新治療法の開発	吉田 好雄	産科婦人科学	3,100,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
生殖細胞の質をメンテナンスする:ミトコンドリア品質管理の観点より	折坂 誠	産科婦人科	1,000,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
心音信号を用いた胎児心拍数細変動解析装置の開発と評価	玉村 千代	産科婦人科	1,300,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
FDG-PETテクスチャ解析法を用いた新たな子宮肉腫予後予測バイオマーカーの開発	山本 真	産科婦人科	700,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
慢性ストレスと肥満:なぜ下部尿路機能障害を起こすのか?	横山 修	泌尿器科学	600,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
過活動膀胱は動脈硬化と関連しない低活動膀胱発症の危険因子か	関 雅也	泌尿器科学	1,500,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
neuromodulation:神経可塑への作用は過活動膀胱の新治療となり得るか	松田 陽介	泌尿器科	1,100,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
夜間頻尿の変動はその関連疾患の変化を察知する代替マーカーとなりうるか?	青木 芳隆	泌尿器科	1,900,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
緑内障視神経症の病態を断ち切る画期的な手術手技の確立	稲谷 大	眼科学	3,600,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
糖尿病網膜症におけるエビジェネティックな制御機構の解明による新しい病態概念の確立	高村 佳弘	眼科学	900,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
免疫学に基づいた緑内障手術の新たな臨床エビデンスの確立	稲谷 大	眼科学	900,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
サイトカインをバイオマーカーにした新たな糖尿病黄斑浮腫評価法の創出と治療戦略	松村 健大	眼科学	800,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
網膜神経節細胞のミトコンドリア動態と細胞死誘導機構の相関性解明とその臨床応用	三宅 誠司	眼科学	1,000,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
涙液サイトカインをバイオマーカーとした網脈絡膜血管新生疾患の新しい検査法の創出	友松 威	眼科	900,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アレルギー性鼻炎発症における肥満細胞脱顆粒の多面的研究	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	2,300,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Mechanism of production and release of tissue plasminogen activator in airway epithelial cells	坂下 雅文	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,000,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
鼻副鼻腔炎症疾患におけるORMDL3の機能について	扇 和弘	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,800,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ROS制御による頭頸部癌の化学放射線耐性の克服	成田 憲彦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,200,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
遺伝子導入による顔面神経軸索再生の試み	岡本 昌之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,000,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
凝固、線溶系の制御からみた好酸球性副鼻腔炎の病態解明と新規治療法の開発	高林 哲司	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,400,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
好酸球性炎症粘膜におけるTRP受容体ファミリーの発現とその機能解析	徳永 貴広	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,400,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
頭頸部癌に対する化学放射線治療後の新しいPET検査による評価の検討	呉 明美	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,200,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アレルギー性鼻炎発症機序の解明	加藤 幸宣	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
頭頸部癌におけるタキソール耐性にCDKN3は関与するか	伊藤 有未	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,600,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計24

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
高齢者の異時性口腔癌制御を目的とした血管新生阻害剤局所注入療法の確立	佐野 和生	歯科口腔外科学	1,000,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
カテキンの上皮成長因子受容体分解作用を応用した口腔癌治療の検討	吉村 仁志	歯科口腔外科学	1,100,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
術後遷延性疼痛の脳内メカニズムの解明	中井 國博	形成外科	800,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脱分化軟骨細胞Lineage tracing法開発による軟骨細胞脱分化過程の解析	峯岸 芳樹	形成外科	900,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
間質病変の進展抑制におけるFSP1を介したポドサイト-尿管上皮細胞連関の重要性	岩野 正之	腎臓病態内科学	2,900,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
睡眠時無呼吸症候群-糖尿病性腎症連関(ポドサイト障害と尿中microRNA解析)	高橋 直生	腎臓内科	1,200,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
津波被災地をフィールドとした下肢静脈エコー所見と止血機能検査の研究	山村 修	地域医療推進講座	100,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳梗塞に伴う過活動膀胱の発症予防を目指す非神経因性膀胱壁過緊張に関する研究	秋野 裕信	医療安全管理部	1,300,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
医療安全院内研修会の有効性に関するエビデンスの構築と応用	北浜 紀美子	医療安全管理部	1,500,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
焼却滅菌に着眼した新発想空気清浄化装置による病院環境のリスクマネジメント	岩崎 博道	感染制御部	1,100,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体の糸球体障害抑制作用の解析と新規治療薬の探索	木村 秀樹	検査部	1,100,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
新規腎疾患マーカーとしての血中・尿中アンジオポエチン様蛋白4の解析と治療薬の探索	鳥居 国雄	検査部	1,500,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
腸肝循環の脱抱合メカニズムにおける薬物相互作用の分子機構解明	古俵 孝明	薬剤部	1,100,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
PNSと他の看護提供方式による患者満足度と看護師の職務満足度に関する調査研究	江守 直美	看護部	1,800,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Pathogenesis analysis of sciatica on lumbar disc herniation. Changes of nerve root evoked potentials and oxygen concentration induced by intraoperative SLR test	小林 茂	リハビリテーション部	300,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ヒト後縦靭帯骨化症における伸展ストレスと遺伝子タンパク発現量変化に関する検討	杉田 大輔	リハビリテーション部	1,600,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳-末梢神経Dual stimulationの脳脊髄イメージングと動作解析研究	久保田 雅史	リハビリテーション部	3,000,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
廃用性筋萎縮と深部静脈血栓症を予防する短下肢装具型の下腿三頭筋電気刺激装置の試作	嶋田 誠一郎	リハビリテーション部	500,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ADHD患者の運動障害に対する定量的な評価方法の確立	成瀬 廣亮	リハビリテーション部	2,400,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
神経障害性疼痛に対する新しい電気刺激治療の確立	松尾 英明	リハビリテーション部	1,100,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
スプライソソーム遺伝子LUC7L2の機能不全に基づく骨髄悪性腫瘍発症機序の解明	細野 奈穂子	がん診療推進センター	1,200,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
在宅緩和ケア向上のための地域連携バス普及促進に関する研究	児玉 麻衣子	がん診療推進センター	700,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
安静時機能的MRIによる注意欠如多動症に対する診断と治療効果の客観的評価法の開発	水野 賀史	子どものこころ診療部	1,900,000	③補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計23

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脳機能イメージングによる小児愛着障害の病態解明と生理学的指標の確立	滝口 慎一郎	子どものこころ診療部	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
これまでの研究の総力を結集させた愛着障害の早期診断・病態解析システムの開発・治療	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	4,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
PET所見に基づく自閉症・シナプス膜移行異常仮説の検証	松崎 秀夫	子どものこころの発達研究センター	5,500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
唾液オキシトシン濃度測定による社会性評価の確立	小坂 浩隆	子どものこころの発達研究センター	1,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
自閉症スペクトラム障害の早期診断のためのオミックス解析と発達コホート研究	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
精子エピジェネティックマークを介した子孫への行動異常の伝承	松崎 秀夫	子どものこころの発達研究センター	1,500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
社会的情報への注目が自閉スペクトラム症の言語発達と社会性発達に与える影響の探求	藤岡 徹	子どものこころの発達研究センター	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
新しい脳内水動態画像化法の開発	岡沢 秀彦	高エネルギー医学研究センター	1,500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
PET/MRによるエストロゲン依存性腫瘍の受容体発現と酸化ストレスの関連性解明	辻川 哲也	高エネルギー医学研究センター	1,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
新規プリンヌクレオシドアナログForodesineによる耐性白血病の克服	山内 高広	内科学(1)	540,000	補委 公益財団法人 痛風財団
酸化ストレスの脳PETイメージングの開発と神経難病、認知症への応用	井川 正道	神経内科	450,000	補委 一般財団法人 神経疾患研究基金
水素イオンチャネルである細胞毒ポリセオナミドBの分子機構の解明	松木 悠佳	麻酔・蘇生学	270,000	補委 公益財団法人 中部科学技術センター
統合型PET/MRIを用いた非小細胞肺癌患者における免疫チェックポイント阻害薬の早期治療効果予測に関する研究	辻川 哲也	高エネルギー医学研究センター	900,000	補委 公益財団法人 大和証券ヘルス財団
PET所見に基づく自閉症・シナプス膜移行異常仮説の検証	松崎 秀夫	子どものこころの発達研究センター	1,000,000	補委 公益財団法人 先進医薬研究振興財団
慢性冠動脈疾患患者におけるイコサペント酸エチルの二次予防効果の検討 [Randomized trial for Evaluation in Secondary Prevention Efficacy of Combination Therapy - Statin and Eicosapentaenoic Acid (RESPECT-EPA)]	森下 哲司	循環器内科	395,000	補委 (一財)生産開発科学 研究所
再発危険因子を有するStage II大腸癌に対するUFT/LV療法の臨床的有用性に関する研究(JFMC46-1201)	五井 孝憲	消化器外科	324,000	補委 公益財団法人 がん集学的治療研究財団
養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステム構築	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	10,777,000	補委 国立研究開発法人 科学技術振興機構
12誘導心電図伝送システム実証事業	木村 哲也	救急医学	2,650,320	補委 福井県知事
注視点検出技術を活用した発達障がい診断システムの開発	小坂 浩隆	子どものこころの発達研究センター	6,500,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	22,230,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
臨床情報の収集・解析、治療法の検討、臨床ネットワーク構築	岩崎 博道	感染制御部	1,500,001	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
新規結核菌抗原とDNAアジュバントを用いた成人肺結核に対するブースターワクチンの開発	岩崎 博道	感染制御部	16,830,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

小計22

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
クラウド型救急医療連携システムの研究	木村 哲也	救急医学	3,646,000	補 委 消防庁
食物アレルギーに対する免疫療法と効果判定法の開発	大嶋 勇成	小児科学	2,800,000	補 委 (独)国立病院機構相模原病院
免疫賦活薬の開発	中本 安成	内科学(2)	3,000,000	補 委 国立大学法人金沢大学
NGS技術を用いたC型肝炎のHLAクラスII分子免疫に関する病態解析	中本 安成	内科学(2)	2,000,000	補 委 国立大学法人山梨大学
オリジナル抗原HSP105由来ペプチドワクチンのFIIH医師主導治験	中本 安成	内科学(2)	1,000,000	補 委 国立研究開発法人国立がん研究センター
好酸球性鼻茸におけるプロテオーム解析と特異的蛋白の機能研究	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,950,000	補 委 (独)国立病院機構相模原病院
①MELAS/MELAに対するピルビン酸療法のPhase2試験および長期試験の実施 ②ミトコンドリア病の診断・治療アルゴリズムの策定	畑 郁江	小児科学	1,967,711	補 委 学校法人久留米大学
後縦靭帯骨化症の病態解明・治療法開発に関する研究	中嶋 秀明	整形外科	1,500,000	補 委 学校法人慶応義塾
生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの新規治療法・予防法の開発	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,000,000	補 委 国立大学法人島根大学
GWASプロジェクト、その他の病因・病態解明プロジェクト、強皮症の活動性・予後予測因子の抽出、新規治療開発	長谷川 稔	皮膚科学	250,000	補 委 国立大学法人熊本大学
25-4-7心房細動の予防ならびに重症化の予測的診療体系の確立	夢田 浩	循環器内科学	490,000	補 委 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
エベロリムス溶出性コバルトクロムステント留置後の抗血小板剤2剤併用療法(DAPT)期間を1ヶ月に短縮することの安全性を評価する研究【STOPDAPT2】	池田 裕之	循環器内科	75,600	補 委 (一財)生産開発科学研究所
実地臨床におけるバイオリムス溶出性ステント(BES)とエベロリムス溶出性ステント(EES)の有効性及び安全性についての多施設前向き無作為化オープンラベル比較試験【NOBORI Biolimus-Eluting versus XIENCE/PROMUS Everolimus-eluting Stent Trial:NEXT】	宇隨 弘泰	循環器内科学	302,400	補 委 (財)生産開発科学研究所
低侵襲治療用医療機器に最適なチタン系高強度・高靱性素材の開発	北井 隆平	脳神経外科学	520,000	補 委 公益財団法人福井産業支援センター

小計14  
計131

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院におけ る所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Negoro E, Radivoyevitch T, Polprasert C, 他	血液・腫瘍内科	Molecular predictors of response in patients with myeloid neoplasms treated with lenalidomide.	Leukemia. 2016 Dec;30(12):2405-2409	Original Article
2	Oiwa K, Morita M, Kishi S,他	血液・腫瘍内科	High Risk of Tumor Lysis Syndrome in Symptomatic Patients with Multiple Myeloma with Renal Dysfunction Treated with Bortezomib.	Anticancer Res. 2016 Dec;36(12):6655-6662	Original Article
3	Hamano T, Shirafuji N, Makino C,他	内科学(2)	Pioglitazone prevents tau oligomerization.	Biochem Biophys Res Commun. 2016 Sep ;478(3):1035-1042	Original Article
4	Hayashi K, Hamano T, Kawamura Y, 他	神経内科	Muscle MRI of the Upper Extremity in the Myotonic Dystrophy Type 1	Eur Neurol. 2016 Jul;76(1-2):87-94	Original Article
5	Kishitani T, Matsunaga A, Ikawa M, 他	神経内科	Limbic encephalitis associated with anti-NH2-terminal of alpha-enolase antibodies: A clinical subtype of Hashimoto encephalopathy.	Medicine (Baltimore). 2017 Mar(オンライン)	Original Article
6	Ikawa M, Lohith TG, Shrestha S, 他	神経内科	11C-ER176, a Radioligand for 18-kDa Translocator Protein, Has Adequate Sensitivity to Robustly Image All Three Affinity Genotypes in Human Brain.	J Nucl Med. 2017 Feb;58(2):320-325	Original Article
7	Matsunaga A, Yoneda M	神経内科	Dementia due to Endocrine Diseases	Brain Nerve. 2016 Apr;68(4):399-405	Original Article
8	Nakamoto Y	内科学(2)	Promising new strategies for hepatocellular carcinoma.	Hepatol Res. 2017 Mar;47(4):251-265	Original Article
9	Ohtani M, Suto H, Nosaka T,他	消化器内科	Long-Term Endoscopic Follow-Up of Patients with Chronic Radiation Proctopathy after Brachytherapy for Prostate Cancer.	Diagn Ther Endosc. 2016 May:1414090	Original Article

小計9



10	Ohno T, Ohtani M, Suto H,他	消化器内科	Effect of green tea catechins on gastric mucosal dysplasia in insulin-gastrin mice	Oncol Rep. 2016 Jun;35(6):3241-3247	Original Article
11	Konoshita T, Kaeriyama S, Urabe M,他	内科学(3)	On the top of ARB N/L type Ca channel blocker leads to less elevation of aldosterone	Biosci Rep. 2016 Sep (オンライン)	Original Article
12	Tetsuji Morishita , Hiroyasu Uzui, Naoki Amaya,他	循環器内科	Associations of body mass index, wasting syndrome and prognosis in patients with chronic heart failure	J AM COLL CARDIOL. 2016 Apr;67(13):1336	Original Article
13	Morishita T, Uzui H, Ikeda H,他	循環器内科	Association of CD34/CD133/VEGFR2-Positive Cell Numbers with Eicosapentaenoic Acid and Postprandial Hyperglycemia in Patients with Coronary Artery Disease	Int J Cardiol. 2016 Oct ;221:1039-1042	Original Article
14	Mitsuhiro Morikawa, Toshiyuki Nakazawa, Shigeru Kato, 他	消化器外科	Acinar cell carcinoma of the pancreas in childhood	International Cancer Conference Journal. 2016 July;5 (3) :140-145	Case report
15	Murakami M, Katayama K, Kato S,他	消化器外科	Large-cell neuroendocrine carcinoma of the common bile duct: a case report and a review of literature	Surg Case Rep. 2016 Dec;2(1):141	Case report
16	Fujimoto D, Goi T, Hirono Y	消化器外科	Expression of ribophorin 2 is a promising prognostic factor in human gastric adenocarcinoma	Int J Oncol. 2017 Feb;50(2):448-456	Original Article
17	Yokoi S, Murakami M, Morikawa M, 他	消化器外科	Sericin in the isolating solution improves the yield of islets isolated from the pancreas	Cytotechnology. 2016 Dec;68(6):2491-2502	Original Article
18	Matsuta Y	泌尿器科	Editorial Comment to Differences in neurotransmitter systems of ventrolateral periaqueductal gray between the micturition reflex and nociceptive regulation: An in vivo microdialysis study	Int J Urol. 2016 Jul;23(7):598	Original Article
19	Yokoyama O, Nishizawa O, Homma Y,他	泌尿器科学	Nocturnal Polyuria and Hypertension in Patients with Lifestyle Related Diseases and Overactive Bladder	J Urol. 2017 Feb;197(2):423-431	Original Article
20	Nakai K,Nakae A, Kubo T,他	形成外科	Contribution to Pain-Related Behavior By Various Types of Spinal Alpha 2 Adrenergic Receptor in A Rat Model of Trigeminal Neuropathic Pain	Anesthesia & Analgesia. 2016 Sep;123(SUPPL3):417	Original Article

21	Kokubo Y, Oki H, Sugita D,他	整形外科	Long-term clinical outcome of acetabular cup revision surgery: comparison of cemented cups, cementless cups, and cemented cups with reinforcement devices	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2016 May;26(4):407-413	Original Article
22	Kokubo Y, Oki H, Sugita D,他	整形外科	Functional outcome of patients with unstable pelvic ring fracture	J Orthop Surg (Hong Kong). 2017 Jan;25(1):1-6	Original Article
23	Kokubo Y, Oki H, Takeura N, 他	整形外科	Reconstruction of acetabulum in revision total hip arthroplasty for pelvic discontinuity: report of a difficult case requiring four revision arthroplasty	Springerplus. 2016 May ;5:597	Case report
24	Miyazaki T, Uchida K, Kokubo Y,他	整形外科	Extensive Loss of Tibialis Anterior Tendon: Surgical Repair With Split Tendon Transfer of Tibialis Posterior Tendon: A Case Report	J Foot Ankle Surg. 2016 May;55(3):633-637	Case report
25	Matsumura T, Takamura Y, Tomomatsu T,他	眼科学	Comparison of the Inverted Internal Limiting Membrane Flap Technique and the Internal Limiting Membrane Peeling for Macular Hole with Retinal Detachment	PLoS One. 2016 Oct (オンライン)	Original Article
26	Tomomatsu Y, Tomomatsu T, Takamura Y, 他	眼科	Comparative study of combined bevacizumab/targeted photocoagulation vs bevacizumab alone for macular oedema in ischaemic branch retinal vein occlusions	Acta Ophthalmol. 2016 May (オンライン)	Original Article
27	Iwasaki K, Takamura Y, Nishida T,他	眼科	Comparing trabeculectomy outcomes between first and second operated eyes : A multicenter study	PLoS One. 2016 Sep (オンライン)	Original Article
28	Gozawa M, Takamura Y, Miyake S,他	眼科	Prospective observational study of conjunctival scarring after phacoemulsification	Acta Ophthalmol. 2016 Nov (オンライン)	Original Article
29	Arimura S, Takahara Y, Miyake S,他	眼科	Randomized Clinical Trial for Early Postoperative Complications of Ex-PRESS Implantation versus Trabeculectomy: Complications Postoperatively of Ex-PRESS versus Trabeculectomy Study (CPETS)	Scientific Reports. 2016 May ;6:26080	Original Article
30	Arimura S, Takamura Y, Miyake S,他	眼科	The effect of triamcinolone acetonide or bevacizumab on the levels of proinflammatory cytokines after retinal laser photocoagulation in pigmented rabbits	Experimental Eye Research. 2016 Aug;149:1-7	Original Article
31	Kazuhiro Ogi, Tetsuji Takabayashi, Takechiyo Yamada,他	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科学	Trimellitic anhydride induces low-grade mast cell degranulation without specific IgE	Toxicology Reports. 2016 Sep;3: 701-707	Original Article

32	Yoshimura H, Ohba S, Yasuta M, 他	歯科口腔外科学	Infrazygomatico-coronoid fixation in a segmental mandibular reconstruction with a free vascularized flap: A simple and correct repositioning method without interfering with reconstructive and microsurgical procedures	Head Neck. 2016 Nov;38(11):1679-1687	Original Article
33	Matsuda S, Yamaguchi T, Mikami S,他	歯科口腔外科	Rhythm and amplitude of rhythmic masticatory muscle activity during sleep in bruxers - comparison with gum chewing	Cranio. 2016 Jul;34(4):234-241	Original Article
34	Matsuda S, Yoshimura H, Hamano T,他	歯科口腔外科	Post-Traumatic Trigeminal Neuropathy Caused by an Orbital Stab Wound	J Craniofac Surg. 2017 Jan (オンライン)	Case report
35	Tokuriki S, Igarashi A, Okuno T,他	小児科学	Postnatal Changes in Humerus Cortical Bone Thickness Reflect the Development of Metabolic Bone Disease in Preterm Infants.	Disease markers. 2016 Apr;2176594	Original Article
36	Yasutomi M, Okazaki S, Hata I,他	小児科	Cytokine profiles in Mycoplasma pneumoniae infection-associated hemophagocytic lymphohistiocytosis	J Microbiol Immunol Infect. 2016 Oct;49(5):813-816	Case report
37	Yoshikawa T, Tanizawa A, Suzuki K, 他	小児科	High-Risk Neuroblastoma with Metastases to Bilateral Kidneys at Diagnosis	Case Reports in Pediatrics. 2017 Mar;5375091	Case report
38	Yoshikawa T, Tanizawa A, Suzuki K,他	小児科	The Usefulness of T1-Weighted Magnetic Resonance Images for Diagnosis of Acute Leukemia Manifesting Musculoskeletal Symptoms prior to Appearance of Peripheral Blood Abnormalities.	Case Reports in Pediatrics. 2016 Oct;2802596	Case report
39	Yamamoto M, Tsujikawa T, Fujita Y, 他	産科婦人科	Metabolic tumor burden predicts prognosis of ovarian cancer patients who receive platinum-based adjuvant chemotherapy.	Cancer Sci. 2016 Apr;107(4):478-485	Original Article
40	Kanako Ota, Kazumi Kawahara, Harumichi Banno,他	産科婦人科	Hemophagocytic lymphohistiocytosis caused by pyogenic liver abscess during pregnancy: a case report and literature review	Open Journal of Obstetrics and Gynecology(OJOG). 2016 Apr;6(5):287-292	Case report
41	Goto T, Kato M, Matsumura Y,他	神経科精神科	Scopolamine Ointment for Clozapine-Associated Sialorrhea : A Case Report	J Clin Psychopharmacol. 2017 Feb;37(1):106-107	Case report
42	Goto T, Ishitobi M, Takahashi T, 他	神経科精神科	Reversible Splenic Lesion Related to Acute Lithium Intoxication in a Bipolar Patient: A Case Report.	J Clin Psychopharmacol. 2016 Oct;36(5):528-529	Case report

43	Kikuta K, Kitai R, Kodera T,他	脳脊髄神経外科学	Predictive Factors for the Occurrence of Visual and Ischemic Complications After Open Surgery for Paraclinoid Aneurysms of the Internal Carotid Artery	Acta Neurochir Suppl. 2016 Sep;123:41-49	Original Article
44	Arishima H, Kawajiri S, Arai H,他	脳脊髄神経外科	Percutaneous glycerol rhizotomy for trigeminal neuralgia using a single-plane, flat panel detector angiography system: technical note	Neurol Med Chir (Tokyo). 2016 May ;56(5):257-263	Original Article
45	Arishima H, Neishi H, Kikuta K	脳脊髄神経外科	Occipital cephalocele with neural crest remnants? Radiological and pathological findings in a newborn boy	Childs Nerv Syst. 2016 Jun;32(6):1141-1144	Original Article
46	Arishima H, Kikuta KI	脳脊髄神経外科	Magnetic resonance imaging findings of isolated abducent nerve palsy induced by vascular compression of vertebrobasilar dolichoectasia	J Neurosci Rural Pract. 2017 Jan-Mar;8(1):124-127	Original Article
47	Arishima H, Akazawa A, Kikuta KI	脳脊髄神経外科	Skull subsidence due to periosteum defect following craniotomy in a child	Pediatr Neurosurg. 2017 Mar;52(2):109-113	Original Article
48	Kodera T, Arishima H, Yamada S,他	脳脊髄神経外科	Orbitozygomatic craniotomy with modified zabramski's technique: a technical note and anatomic and clinical findings	World Neurosurg. 2017 Jan;97:49-57	Case report
49	Isozaki M, Arai H, Neishi H,他	脳脊髄神経外科学	Super-selective Balloon Test Occlusion of the Posterior Communicating Artery in the Treatment of a Posterior Cerebral Artery Fusiform Aneurysm: a Case Report	NMC Case Rep J. 2016 Sep ;3(4):129-131	Case report
50	Isozaki M, Arai Y, Higashino Y, 他	脳脊髄神経外科学	Cerebral hyperperfusion syndrome resulting in subarachnoid hemorrhage after carotid artery stenting	Ann Nucl Med. 2016 Nov;30(9):669-674	Case report
51	Takeuchi H, Kitai R, Hosoda T,他	脳脊髄神経外科	Clinicopathologic features of small cell glioblastomas	J Neurooncol. 2016 Apr;127(2):337-344	Original Article
52	Mita K, Tsugita K, Yasuda Y,他	麻酔科蘇生科	A successfully treated case of cardiac arrest after Caesarean section complicated by pheochromocytoma crisis and amniotic fluid embolism	J Anesth. 2017 Feb;31(1):140-143	Case report
53	Kosaka H,Okamoto Y,Munesue T,他	情動認知発達研究部門	Oxytocin efficacy is modulated by dosage and oxytocin receptor genotype in young adults with high-functioning autism: a 24-week randomized clinical trial.	Transl Psychiatry. 2016 Aug (オンライン)	Original Article

54	Takashi X. Fujisawa, Yasuhiro Azuma, Masato Konishi,他	発達支援研究部門	Age-related bias in age estimation based on facial images of others	Psychology.2016 Apr;7:459-468	Original Article
55	Fujisawa TX, Nishitani S, Iwanaga R,他	発達支援研究部門	Association of aryl hydrocarbon receptor-related gene variants with the severity of autism spectrum disorders.	Front Psychiatry. 2016 Nov ;7:184	Original Article
56	Kanji Katayama, Mitsuhiko Morikawa, Kenji Koneri,他	がん診療推進センター	High-Temperature Hyperthermic Intraperitoneal Chemotherapy(H-HIPEC) with Cytoreductive Surgery for Patients with Peritoneal Metastases of Colorectal Cancer and Appendiceal Pseudomyxoma	Hyperthermic Oncology from Bench to Bedside.2016. Jun; 355 - 369	Original Article
57	Hosono N, Makishima H, Mahfouz R, 他	がん診療推進センター	Recurrent genetic defects on chromosome 5q in myeloid neoplasms	Oncotarget. 2017 Jan ;8(4):6483-6495	Original Article
58	Tsujikawa T, Asahi S, Oh M,他	分子イメージング展開領域	Assessment of the tumor redox status in head and neck cancer by <sup>62</sup> Cu-ATSM PET.	PLoS One. 2016 May (オンライン)	Original Article
59	Tsujikawa T, Kimura H, Matsuda T, 他	分子イメージング展開領域	Arterial transit time mapping obtained by pulsed continuous 3D ASL imaging with multiple post-label delay acquisitions: Comparative study with PET-CBF in patients with chronic occlusive cerebrovascular disease.	PLoS One. 2016 Jun (オンライン)	Original Article
60	Naruse H, Fujisawa TX, Yatsuga C,他	リハビリテーション部	Increased anterior pelvic angle characterizes the gait of children with attention deficit/hyperactivity disorder (ADHD)	PLoS One. 2017 Jan (オンライン)	Original Article
61	Kodawara T, Higashi T, Negoro Y,他	薬剤部	The inhibitory effect of ciprofloxacin on the beta-glucuronidase-mediated deconjugation of the irinotecan metabolite SN-38-G.	Basic Clin Pharmacol Toxicol. 2016 May;118(5):333-337	Original Article
62	Noriki S, Ishida H	病理診断科	Production of an anti-dermatophyte monoclonal antibody and its application: immunochromatographic detection of dermatophytes	Med Mycol. 2016 Nov ;54(8):808-815	Original Article
63	Noriki S, Kinoshita K, Inai K,他	病理診断科	Newly recognized cerebral infarctions on postmortem imaging: a report of three cases with systemic infectious disease	BMC Med Imaging. 2017 Jan ;17(1):4	Case report
64	Kawano T, Scheuermeyer FX, Stenstrom R, 他	救急部	Epinephrine use in older patients with anaphylaxis: Clinical outcomes and cardiovascular complications	Resuscitation. 2017 Mar;112:53-58	Original Article

65	Goto T, Yoshida K, Tsugawa Y, 他	救急部	Mortality trends in U.S. adults with septic shock, 2005–2011: a serial cross-sectional analysis of nationally-representative data	BMC Infect Dis. 2016 Jun ;16:294	Original Article
66	Shimizu K, Kosaka N, Fujiwara Y, 他	放射線部	Arterial Transit Time-corrected Renal Blood Flow Measurement with Pulsed Continuous Arterial Spin Labeling MR Imaging	Magn Reson Med Sci. 2017 Jan ;16(1):38–44	Original Article
67	Matsuda Y, Yamauchi T, Hosono N,他	輸血部	Combination of panobinostat with ponatinib synergistically overcomes imatinib-resistant CML cells	Cancer Sci. 2016 Jul;107(7):1029–1038	Original Article
68	Obata Y, Mizogami M, Singh S,他	集中治療部	The effects of hemodynamic changes on pulse wave velocity in cardiothoracic surgical patients	Biomed Res Int. 2016 Nov;2016:9640457	Original Article
69	Obata Y, Mizogami M, Nyhan D, 他	集中治療部	Pilot study: Estimation of stroke volume and cardiac output from pulse wave velocity	PLoS One. 2017 Jan (オンライン)	Original Article
70	Obata Y, Ong QJ, Magruder JT, 他	集中治療部	Noninvasive assessment of the effect of position and exercise on pulse arrival to peripheral vascular beds in healthy volunteers	Front Physiol. 2017 Feb ;8:47	Original Article
71	Inai K, Noriki S, Kinoshita K,他	分子病理学	Postmortem CT is more accurate than clinical diagnosis for identifying the immediate cause of death in hospitalized patients: a prospective autopsy-based study	Virchows Arch. 2016 Jul;469(1):101–109	Original Article

小計7  
計71

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367–9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 1. 倫理審査申請から承認、研究の実施までの流れ 2. 倫理審査申請書類の作成について 3. 倫理審査の申請から委員会審査、承認まで 4. 研究計画の実施状況報告及び終了（中止）報告について 5. 重篤な有害事象及び不具合への対応 6. 倫理審査委員会に関する情報 7. 倫理審査申請に関する問い合わせ先	
③ 倫理審査委員会の開催状況	(委員会開催) 年12回 (委員長及び委員2名による迅速審査) 年383回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 1. 趣旨、2. 委員会の設置、3. 組織、4. 申告書の提出等、5. 審査の方法、6. 審査結果の報告、 7. 指導等、8. 事務、9. 雑則	

<p>③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況</p>	<p>【委員会審査】年20回  (委員全員による書面附議)年19回  (委員会開催)年1回  【委員長審査】79回</p>
--	---

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

<p>① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況</p>	<p>年3回</p>
<p>・研修の主な内容</p> <p>1. 平成28年9月30日(金) 17:30~18:30  「人を対象とした医学系研究に関する基本ルールについて」  福井大学医学部附属病院 医学研究支援センター 渡邊 亨平 講師</p> <p>2. 平成29年1月24日(火) 17:30~18:30  「事例を通じて考える臨床研究の倫理的問題」  福井大学医学部附属病院 医学研究支援センター 渡邊 亨平 講師</p> <p>3. 平成29年3月15日(水) 17:30~18:45  「基礎・臨床研究の信頼性向上のための統計手法」  大阪市立大学大学院医学研究科 新谷 歩 特命教授</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。



(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各領域（診療科）において、専門研修プログラムを有し、修練目標・研修方略等が掲げられた詳細なカリキュラムに沿って研修し、それぞれの専門医取得を目指す。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	129.8 人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
山内 高弘	血液・腫瘍内科	教授	27年	
岩崎 博道	感染症・膠原病内科	教授	30年	
中本 安成	消化器内科	教授	27年	
濱野 忠則	神経内科	准教授	26年	
石塚 全	呼吸器内科	教授	26年	
此下 忠志	内分泌・代謝内科	准教授	30年	
岩野 正之	腎臓内科	教授	29年	
茅田 浩	循環器内科	教授	31年	
五井 孝憲	消化器外科	教授	27年	
前田 浩幸	乳腺・内分泌外科	准教授	27年	
腰地 孝昭	心臓血管外科	教授	32年	
佐々木 正人	呼吸器外科	准教授	28年	
横山 修	泌尿器科	教授	34年	
長谷川 稔	皮膚科	教授	25年	
中井 國博	形成外科	准教授	21年	
松峯 昭彦	整形外科	教授	30年	
松峯 昭彦	リハビリテーション科	教授	30年	
稲谷 大	眼科	教授	21年	
藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	30年	
佐野 和生	歯科口腔外科	教授	38年	
大嶋 勇成	小児科	教授	31年	
吉田 好雄	産科婦人科	教授	28年	
和田 有司	神経科精神科	教授	39年	
菊田 健一郎	脳脊髄神経外科	教授	25年	
重見 研司	麻酔科蘇生科	教授	32年	
木村 浩彦	放射線科	教授	29年	
林 寛之	救急科	教授	30年	
今村 好章	病理診断科	准教授	30年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 特になし。 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 特になし。 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	医学部附属病院長 腰地 孝昭
管理担当者氏名	総務管理課長 柘植 智司 経営企画課長 壬生 篤志 医療サービス課長 吉野 孝博 医療情報部長 菊田 健一郎 医療安全管理部長 秋野 裕信 感染制御部長 岩崎 博道 薬剤部長 後藤 伸之 放射線部長 木村 浩彦 ME機器管理部長 片山 寛次

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	事項 規則第二十二條の三第二項に掲げる	病院日誌	病院部総務管理課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	病院部医療サービス課(病歴室)
		看護記録	病院部医療サービス課(病歴室)
		検査所見記録	病院部医療サービス課(病歴室)
		エックス線写真	各診療科
		紹介状	病院部医療サービス課(病歴室)
病院の管理及び運営に関する諸記録	事項 規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事労務課
		高度の医療の提供の実績	病院部総務管理課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院部総務管理課
		高度の医療の研修の実績	病院部総務管理課
		閲覧実績	病院部総務管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	病院部医療サービス課
	事項 規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院部医療サービス課及び薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

外来診療録は、1患者1ファイル、入院診療録は、1患者1入退院1ファイルで病歴室において中央管理している。電子診療録として、1患者1ファイルを医療情報部において管理している。なお、診療録の持ち出しは禁止としている。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医薬品安全管理部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医薬品安全管理部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医薬品安全管理部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医薬品安全管理部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	病院部総務管理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器管理部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器管理部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	病院部総務管理課		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医薬品安全管理部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医薬品安全管理部
		監査委員会の設置状況	病院部総務管理課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院部 医療サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	監査室
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	医学部附属病院長 腰地 孝昭		
閲覧担当者氏名	総務管理課長 柘植 智司		
閲覧の求めに応じる場所	管理棟会議室		
閲覧の手続の概要			
諸記録の閲覧の申請を担当係に行う。 申請内容を確認の後、閲覧資料の準備を行う。 所定の場所（主に管理棟の会議室）において閲覧。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 医療に係る安全管理の基本的考え方</li><li>(2) 医療に係る安全管理の体制</li><li>(3) 職員研修に関する基本方針</li><li>(4) 医療に係る安全確保の改善方策に関する基本方針</li><li>(5) 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針</li><li>(6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 (患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む。)</li><li>(7) 相談への対応に関する基本方針</li><li>(8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li></ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有・無)</p> <p>・ 開催状況：年 12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 医療安全管理の指針に関すること。</li><li>(2) 医療安全管理の対策及び改善に関すること。</li><li>(3) 医療安全管理に係る指導及び助言に関すること。</li><li>(4) その他医療安全管理の重要事項に関すること。</li></ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 8 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 全職員を対象に、平成 28 年 6 月 20 日に院内講師による「生体モニター管理」について研修を行った。</li><li>(2) 全職員を対象に、平成 28 年 8 月 24 日に院内講師による「インフォームドコンセントと診療録」について研修を行った。</li><li>(3) 全職員を対象に、平成 28 年 10 月 13 日に院内講師による「特定機能病院の安全に係る規定」について研修を行った。</li><li>(4) 全職員を対象に、平成 28 年 10 月 19 日に院内講師による「医薬品安全使用」について研修を行った。</li><li>(5) 全職員を対象に、平成 28 年 11 月 22 日に外部講師による「笑顔で気働き～安全な医療を提供するために～」について研修を行った。</li><li>(6) 全職員を対象に、平成 28 年 12 月 19 日に院内講師による「産科救急」、「周術期の医療安全」について研修を行った。</li><li>(7) 全職員を対象に、平成 29 年 1 月 23 日に院内講師による「せん妄の治療と対応」、「転倒予防の視点と対策」、「高齢者サポートチーム」について研修を行った。</li><li>(8) 全職員を対象に、平成 29 年 2 月 20 日に院内講師による「ハイリスク薬の安全対策」について研修を行った。</li></ol>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (  有 ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

- (1) 各部署から報告されたオカレンスレポートは、医療安全管理部にて部署リスクマネージャー並びに現場から速やかに聴き取り調査・分析を行い、原因を究明している。さらに改善を要すると判断された重大な事例については、当該診療科長に是正措置を求め、改善策の有効性を確認・検討し、実施状況を検証している。
- (2) 医療事故防止強化月間を定め、重要事項を決めて医療事故防止に取り組んでいる。
- (3) 毎月2回実施部署を決め、院内パトロールを実施している。
- (4) 各部門の管理担当者が参加するカンファレンスを週1回程度開催し、医療安全対策に係る取組の評価等を行っている。
- (5) 日々院内を巡回し、各部門における医療安全対策の実施状況を把握・分析し、医療安全確保のために必要な業務改善のための具体的な対策を推進している。
- (6) 組織横断的なカンファレンスが必要であると判断した事故報告事例に対しては、院内職員を対象にM&Mカンファレンスを開催している。

(注) 前年度の実績を記入すること。



(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 院内感染対策に関する基本的な考え方</li><li>(2) 院内感染対策に関する管理体制</li><li>(3) 職員研修に関する基本方針</li><li>(4) 感染症発生状況の報告に関する基本方針</li><li>(5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li><li>(6) 指針の閲覧に関する基本方針</li><li>(7) その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針</li></ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 感染予防対策の確立に関すること。</li><li>(2) 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。</li><li>(3) 感染源の調査に関すること。</li><li>(4) 感染予防に係る諸調査及び情報の収集に関すること。</li><li>(5) その他感染対策についての重要事項に関すること。</li></ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 7 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 全職員を対象に、平成 28 年 7 月 29 日に院内講師による「医療関連感染の現状と対策」について研修を行った。</li><li>(2) 全職員を対象に、平成 28 年 8 月 18 日に外部講師による「他では聞けない予防接種の話～子どものワクチン、その傾向と対策～」について研修を行った。</li><li>(3) 全職員を対象に、平成 28 年 9 月 1 日に院内講師による「带状疱疹の感染対策」、「知っているようで知らない、身近な小児ウイルス感染症」について研修を行った。</li><li>(4) 全職員を対象に、平成 28 年 10 月 3 日に院内講師による「排尿管理による尿路感染予防～不必要な尿道カテーテル抜去から排尿指導と管理まで～」について研修を行った。</li><li>(5) 全職員を対象に、平成 28 年 11 月 10 日に院内講師による「クロストリジウム・ディフィシル感染症」、「インフルエンザの感染対策」について研修を行った。</li><li>(6) 全職員を対象に、平成 29 年 1 月 27 日に外部講師による「薬剤耐性菌制御の実践～薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランの始動～」について研修を行った。</li><li>(7) 全職員を対象に、平成 29 年 2 月 20 日に院内講師による「内服抗菌薬の基礎知識」について研修を行った。</li></ol>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 感染症発生状況は感染制御部に報告され、感染制御部のメンバーのうち医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成された ICT が日々モニタリングを行っている。また、1 週間に 1 回程度、1 ヶ月間で全病棟を、患者に侵襲的な手術・検査を行う部署は 2 カ月で全部署を、院内巡回し、現場確認を行っている。また、内容により各部署における対策の確認が必要な場合は、感染制御部長より文書で改善を依頼し、各部署とのカンファレンスや現場のラウンド等で確認している。</li><li>(2) 感染制御部員が上記とは別に実施場所を決め、ラウンドを実施している。</li></ol>	

- (3) 各部署のリンクナースはICNと連携し、各看護単位の感染対策上の問題点を抽出し、改善策を実施している。
- (4) ICNが日々細菌室状況をもとに当該部署を巡回し、感染対策の確認と改善指導を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5回
・ 研修の主な内容： ・ 「医薬品の安全使用のための業務手順書」改訂のポイントについて ・ 内服1回量処方について ・ 医薬品の副作用と救済制度について ・ 「ハイリスク薬」の安全対策について ・ 抗がん剤曝露防止について （・ 新規採用看護師に対する静脈注射の安全確保に関する知識について） （・ 新規採用医師に対する処方、注射オーダー時の安全対策について）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有)・無 ) ・ 業務の主な内容： ・ 医療安全管理部と連携し、院内パトロールの機会を通して重要事項の周知状況や医薬品の管理状態を確認 ・ 病棟薬剤師による医薬品情報の周知やスタッフの業務状況の把握（医薬品の安全使用に重要な情報は院内の委員会を通じて周知する他、カンファレンス等で直接薬剤師が説明している）	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 調査薬品レポート（安全管理が必要な医薬品の処方入力に応じて薬剤部で自動出力される）を活用し、担当者が適正使用の状況を確認し、医薬品安全管理室に報告する ・ 薬剤師が疑義照会した処方の内容を医薬品安全管理室が週1回レビューし、適応外使用等の事例を把握している ・ 病棟薬剤師が適応外使用等の事例を把握した場合、医薬品安全管理室に報告している	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	① 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年124回
・ 研修の主な内容： ・ 新規購入の医療機器に関し、納品時に使用説明を含めた研修を行った。 ・ 指定されている定期研修対象機器に関して、年間計画を作成し研修会を行った。 ・ 人工呼吸器や保育器等の高度な医療機器に関して、不定期に研修会を行った。 ・ 新規採用職員を対象とした医療機器の研修を行った。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 ( ③ 有・無 ) ・ 保守点検の主な内容： ・ 重要医療機器に関し、年間保守計画を立てて定期的実施している。また、必要に応じて定期間隔で点検を実施している医療機器もある。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ④ 有・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ メーカーやPMDAから発信されている情報を入手し、必要に応じて医療機器安全管理部会にて報告および改善対策を取っている	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全担当の副病院長を医療安全管理責任者とし、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 5 名 ) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報室による国内外の医薬品情報の収集・整理 (PMDA メディナビの活用、SAFE-DI の活用、文献情報等)、調剤時の疑義照会記録のレビュー、あらかじめ定義した医薬品について医師の処方と共に薬剤部へ出力されるレポートを活用し状況を確認している。</p> <p>病棟薬剤師からの医局、病棟等カンファレンスにおける情報提供、医薬品情報室による情報提供、さらに必要に応じてリスクマネージャー会議で周知等を行っている。</p> <p>医療安全管理部門カンファレンス並びに医療安全管理パトロールにて、当該周知状況の確認を行っている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>医薬品安全管理部会で承認した「使用承認」情報の共有、医局カンファレンス等で病棟薬剤師が知り得た情報の報告、処方薬の適応等に関する確認依頼により、対応が不十分な事例については、医師に対して必要な手続きの依頼を行うなど対応している。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ) (所属： ， 職種 )</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>・毎月定期的に全身麻酔下手術症例に関する IC 記載について遵守状況を確認している。</p> <p>・医療者側・患者側の同席者、患者家族の説明時の反応をカルテに記載するように指導している。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>・日々診療録等の記載内容の確認を行っている。確認の結果指導が必要と判断された事項については、確認実施者から直接当該記録の記載者に連絡し、指導している。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（４）名、専任（３）名、兼任（１９）名  うち医師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（６）名  うち薬剤師：専従（ ）名、専任（１）名、兼任（ ）名  うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（６）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること</p> <p>*平成３０年４月から専従薬剤師を配置予定。</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務</li> <li>・報告されたオカレンスレポートの調査・分析</li> <li>・３ｂ以上のオカレンスが発生した場合の診療録及びインフォームド・コンセントの確認、オカレンス審議委員会で用いられる資料の作成、並びに議事録の作成・保存</li> <li>・オカレンス審議委員会で究明された原因及び改善策等の審議結果についての当該部署への指導</li> <li>・各部署リスクマネージャーへの支援、連絡調整</li> <li>・医療安全の確保のための対策の推進</li> <li>・職員の医療の安全に関する意識の向上の確認</li> <li>・手術時静脈血栓塞栓予防策実施、中心静脈カテーテル留置における合併症、静脈血栓塞栓予防行為が行われなかった入院患者の静脈血栓塞栓症のモニタリング実施</li> <li>・月に２回程度の院内医療安全パトロールの際、医療安全の確認事項シートを用い、医療従事者の医療安全への認識について確認している。</li> </ul> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。  ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高難度新規医療技術を用いた医療の提供の適否決定に関すること。</li> <li>・定めた規程の遵守状況を、高難度新規医療技術を用いた医療の提供後に確認すること。</li> <li>・その他高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関すること。</li> </ul> <p>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）</p>	
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
<p>・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p>	

- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  有 ・ 無 )
- ・活動の主な内容：
  - ・未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否決定に関すること。
  - ・定めた規程の遵守状況を当該未承認新規医薬品等使用症例について確認すること。
  - ・その他未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関すること。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・ 無 )
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  有 ・ 無 )

⑨ 監査委員会の設置状況  有 ・ 無

- ・監査委員会の開催状況：年 0回 (平成 29 年度は 2 回開催予定)
- ・活動の主な内容：
  - ・医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療安全管理部及び医療安全管理委員会の業務状況について、病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を行う。
  - ・必要に応じて、監査の結果に基づき、病院長に対し医療安全管理についての是正措置を講じるよう意見を表明する。
  - ・監査結果及び意見表明を公表する。
- ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( 有 ・  無 )
- ・委員名簿の公表の有無 (  有 ・ 無 )
- ・委員の選定理由の公表の有無 (  有 ・ 無 )
- ・公表の方法：本院のホームページに掲載

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
谷内江 昭宏	国立大学法人 金沢大学附属 病院 医療安全管理 部	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
吉川 奈奈	杉原・きっかわ法律事務所		法律に関する識見を有する者	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
草桶 秀夫	福井工業大学		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
  2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
  3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 263 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 49 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容  
影響レベル3b以上のオカレンスレポート並びに死亡退院報告は、速やかに病院長に報告している。報告状況の確認として、死亡退院報告については、医療安全管理部が全ての死亡退院患者の診療記録を点検し、当該主治医からの報告状況を確認し、報告されていない場合には当該診療科に適切に報告するよう指導している。また、オカレンスレポートについては、多職種から報告されており、他部署で発生したオカレンスについても関わりのあった他部署からの報告があるため医療安全管理部で発生状況が把握でき、報告すべき職員が報告していない場合には、適切に報告するよう指導している。  
部署リスクマネージャーに対して、オカレンス報告の意義、部門リスクマネージャーの責務について指導している。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：）無）平成29年11月9日予定
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：）無）平成29年11月30日予定
- ・技術的助言の実施状況

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況  
「よろず相談窓口」を設置し、患者やその家族からの医療安全に関する相談に適切に応じる体制を確保している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
  - (1)全職員を対象に平成28年8月24日に「インフォームド・コンセントと診療録」について研修を行った。
  - (2)職員を対象に平成28年10月13日に「特定機能病院の安全に係る規定」について研修を行った。上記2件の研修についてはe-learningも実施し、全員の受講を確認した。



⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修  
の実施状況

・研修の実施状況

管理者（病院長）：第2回病院長塾「医療安全における病院長・副病院長の責務について」，  
平成29年1月28日，八重洲通り13階

医療安全管理責任者：第29回国立大学附属病院医療安全管理協議会総会，平成28年11月17、18日，  
鷺メッセ新潟コンベンションセンター

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 BSIグループジャパン株式会社 最初の認証取得日 平成15年 9月10日 最新の更新日 平成29年 4月 4日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 1. 病院公式ホームページの公開 2. 情報誌「フロンティア」の発行・地域への配布 (2回/年) 3. 「病院のご案内」の発行・地域医療機関への配付 (1回/年) 4. 福井街角放送による「福大病院まちかどラジオ」の番組内 (約10分) で病院スタッフが医療情報を発信 (2回/月) 5. 「福井大学病院の得意な治療がわかる本」発刊・地域医療機関等への配付 6. 福井県内及び石川県加賀地区の医療機関を、地域医療連携コーディネーターと地域医療連携部看護師が各診療科における得意な診療のリーフレット等を持参して訪問し、本院の情報提供を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・がん診療推進センター (各診療科) キャンサーボードの実施 ・歯科の周術期における口腔機能の管理 (歯科口腔外科と各診療科)	